

2026年6月15日

報道関係者 各位

院内物品搬送用ロボット「HACOBO」の運用を開始します —院内スタッフの業務負担軽減と院内物流の効率化に向けて—

群馬大学医学部附属病院は、院内物品搬送用ロボット「HACOBO（ハコボ）」の運用を開始しました。自律走行ロボットによる検体の搬送を通じて、スタッフの業務負担軽減と院内物流の効率化を図ります。



1. 本件のポイント

- 院内における物品搬送業務の自動化により、スタッフの業務負担軽減と院内物流の効率化を目指し、院内物品搬送用ロボット「HACOBO」を導入しました。
- 「HACOBO」は自律走行機能や障害物回避機能を備え、安全に配慮しながら院内の指定地点へ物品を搬送します。

2. 本件の背景

院内では、検体、薬剤、医療材料、書類など、多くの物品が日々搬送されています。これらの搬送は診療を支える重要な業務ですが、医療スタッフが搬送のために移動する時間は、患者対応や専門業務に充てられる時間を圧迫する要因になり、院内物流の効率化は医療現場における重要な課題となっています。

また、当院では検体搬送に用いる天井に設置された自走台車の老朽化が進み、メンテナンスに要する費用が課題となっていました。こうした背景から、既存設備を補完しつつ、院内の多様な搬送需要に柔軟に対応できる新たな手段が求められていました。

3. 本件の概要

今回導入した「HACOBO」は、院内を自律走行し、検体や物品を搬送するロボットです。各種センサーにより進行方向の人や障害物を検知し、自動的に停止したり進路を変更したりすることで、安全に配慮しながら走行します。また、音楽や音声による注意喚起機能を備えており、ロボットの接近や走行を周囲に知らせます。エレベーターの自動呼出し・搭乗も可能で、フロア間の移動も可能です。

運用開始にあたっては、まず中央診療棟 2 階の輸血部と南病棟 2 階の検査部間の検体搬送に活用します。このフロアは多くの患者さんが利用するエリアであるため、患者さんの安全を最優先に運用します。実際の院内環境で走行テストを行い、患者さんや来院者の通行が多い時間帯の安全性も確認しました。混雑時の運用には特に配慮し、安全で円滑な通行環境の確保に努めています。当初は輸血部と検査部間での運用から開始しますが、今後の検証結果を踏まえ、フロアをまたぐ搬送や病棟間搬送への展開も検討します。

当院では「HACOBO」の活用により、スタッフが検体や物品を搬送するために移動する時間を削減し、業務負担の軽減につなげます。搬送業務をロボットに任せることで、医療スタッフが患者対応やそれぞれの専門性を発揮すべき業務により多くの時間を充てられることが期待されます。

今後は、本運用の実績や効果を検証しながら、将来的にはフロアをまたぐ病棟間の薬剤搬送、病棟から検査部門への検体搬送、医療材料や書類の搬送など、院内のさまざまな搬送業務への拡大を進め、持続可能な院内物流体制の構築を目指します。当院は今後も、医療 DX の一環として、ロボットやデジタル技術を適切に活用し、医療従事者の働きやすい環境づくりと、より質の高い医療サービスの提供につなげてまいります。

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部医事課医療情報・デジタル変革係

TEL : 027-220-7838 E-MAIL : kk-miryo5@ml.gunma-u.ac.jp

(報道機関からの対応用です。電話番号等の紙面への掲載はご遠慮ください。)

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課企画・広報係

TEL : 027-220-7895 FAX : 027-220-7720

E-MAIL : m-koho@ml.gunma-u.ac.jp